

環境学の

授業拝見!

理学、工学、人文社会科学、異なる専門領域の学生
がともに学ぶ環境学研究科ならではの授業です。



▲第11回のワークショップで指導する小松先生
(2014年4月 名古屋大学で開催)

【今回の授業】

国際学生建築・都市設計ワークショップ

2009年度に結ばれたパリ・ヴァル・ドゥ・セヌ国立高等建築学校との学術協力・交流協定をきっかけに、都市環境学専攻建築学コースとの間で始まったワークショップ。今までに名古屋で5回、パリで4回開催し、言葉や文化が異なる人たちと協働作業をする貴重な機会となっている。

与えられるのは都市デザインの課題。「Imagining cities without highway?—パリ都心と郊外を結ぶ位置に立地する街(VILLIERS LE BEL)を抜ける幹線道路のジャンクション周辺」、「都市の活性化と滅災に向けた駅を中心とする市街地の再整備—鳴子北駅と相生山駅を含む駅そば生活圏を対象に」など、それらは単に開発だけでなく、防災への配慮、緑の保全など、そのエリアをどう再整備するか、幅広い視点が求められている。

名大での実施期間は4月の1週間。その間、日・仏混成チームでお互いの都市についての理解を深め、対象地区を調査し、プランをまとめ最終プレゼンテーションへ持ち込む。自己主張の強いパリ、じっくり型の日本、絵の上手いパリ、模型作りで喝采を浴びる日本。不慣れな英語でのコミュニケーションも、語学力や伝えたいという気持ち以上に、何よりもその中身が重要だということを改めて実感する。「大学院生活のスタート時にいい刺激を受けている」と言うのは、このワークショップを統括する小松尚准教授。「名大で実施する場合は、学生が参加しやすいよう建築学コースとしてバックアップしている。どんな場面でも自分で動かないと始まらない。まずは参加して自分の実力を推し量り、さらなる研鑽に進進してほしい」と、学生を鼓舞している。



▲グループ作業



▲現地調査



▲全体発表



▲第12回パリでのワークショップで発表する銭亀さん

銭亀 夏彦さん
Zengame Natsuhiko

名古屋大学大学院 環境学研究科 都市環境学専攻
小松研究室 修士1年

ワークショップに参加して

他国の学生との合同ワークショップを通して、共同で設計する面白さをまた一つ知ることができた。自分のチームは自分以外、皆フランス語が母国語の学生。最初は言葉の壁が大きかったが、スケッチや模型を使ってのコミュニケーションでその壁はすぐに解消されていった。そして、建築の分野では模型やスケッチによる会話が成り立つということを確認し、コミュニケーションツールは言葉だけでないことを再認識できたことはとても良い経験だった。これからも英語に限らず様々なスキルをたくさん習得していくと同時に、今回得た経験をもとに、将来いつか海外でも仕事をしてみたいと思うようになった。

